

初代源蔵は幼いころから
仏具職人の父に習って
鋳物や金工の技術を
身につけていました



そして
一八六〇(万延元)年
木屋町二条に仏具製造の
店を開きます



また
舎密局に次々と
輸入されてくる西欧の
新しい理化学機器に
強い関心を持ち
その研究に熱中します

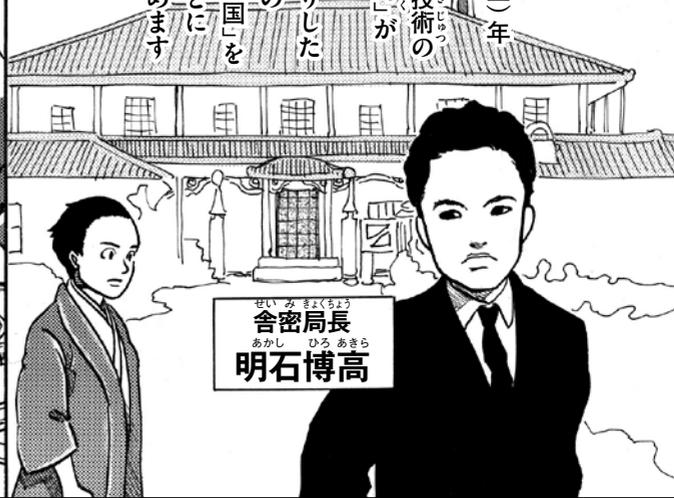
源蔵が
店をかまえた
木屋町二条周辺は



明治時代になると
京都の近代工業・
科学技術の
中心となります

一八七〇(明治三)年
源蔵の店の
すぐ近くに科学技術の
研究機関「舎密局」が
つくられます。

そこによく出入りした
源蔵は国や京都の
政治家が「科学立国」を
めざしていることに
ついて考えを深めます



舎密局長
あかし ひろ あきら
明石博高